

#26 暮らしと収納①

本当に暮らしやすい 収納って何だろう。

雑誌の収納特集や収納ノウハウ本で、よく目にするのが「不用品を上手に処分して…」というアドバイスですよね。実際に持ち物をできるだけ減らして、すっきりシンプルに暮らしたいと願う家族も多いのではないのでしょうか。その反面、いろんな思い出が詰まった物などは手元に残しておきたいし、「できれば処分したくない」「なかなか捨てられない」という方も少なくありません。物がのつきあい方は、いわば暮らし方そのもの。一概に物の多い少ないが良い悪いではなく、わが家らしい暮らしをイメージしながら収納を考えることが、何より大切だと言えるでしょう。今回は、そんな「収納」について、積水ハウスが長年研究してきたノウハウをご紹介します。ぜひ、あなたらしい暮らしと住まいを実現するためのヒントに出会ってください。



収納問題は、広さだけでは解決しません。

収納に悩んでいる人の多くが「物が多くて納まらない」「収納スペースが足りない」と言われます。もちろん物を仕舞えるスペースがあることは大切ですが、広さだけを重視するのは失敗のもと。単にスペース確保だけで解決できないから、収納問題は複雑なのです。

では、広さ以外にどういったことを考えるべきなのでしょう。まずはわが家の普段の暮らしを思い描いてみてください。納めた物が必要なときに取り出して使う物ですね。とりあえず奥の方に仕舞い込むと、いざというときの出し入れが大変。物はたくさん納まったけれど、すぐに取り出せない、探さないと使えないというようでは、かえって悩みを大きくしてしまいます。肝心なのは「家族の持ち物を使い勝手よくスタンバイさせる」という考え方で。

とくに「捨てられない派」「溜め込み派」の方は物が多くなりやすく、ついつい収納スペースの広さを追求しがちです。「収納」使いやすくスタンバイさせる」というスタンスを常に意識しておくことが収納成功のポイントになります。



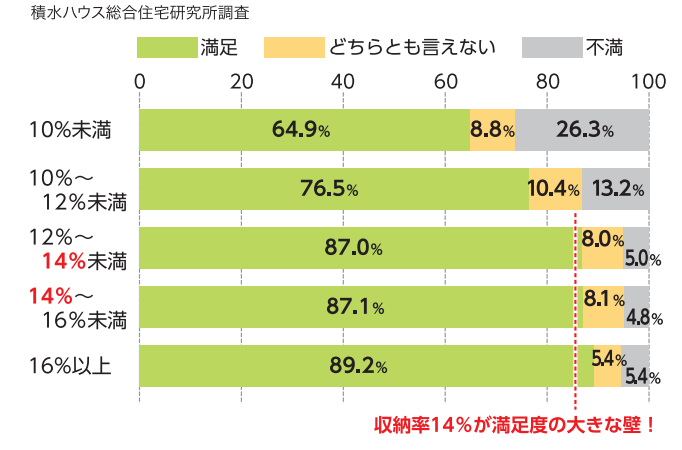
物はたくさん納まったけれど、取り出せない!使えない!ということも...

収納率という言葉をご存知ですか。

収納率とは、住まい全体の床面積に対して収納スペースの床面積がどのくらいを占めるかを示す数字です。じつはこの収納率でも「広さの確保だけでは収納問題の解決にならない」ということが裏付けられています。

一戸建住宅にお住まいの方を対象に調査したところ、10〜12%の収納率を確保すれば、7割以上の方が満足されることがわかりました。しかし同じ調査で、収納率と満足度の関係に意外な結果もあらわれたのです。それが「14%の壁」です。収納率がアップするに伴って満足度も高まるのですが、14%を超えたところで頭打ち。さらに収納率を高めても、暮らしの満足度は大きく変わらないうのです。「収納≠広さ」ということがお分かりいただけると思います。また、マンションの収納率は「一戸建住宅より

■収納率と満足度の関係(一戸建住宅の場合)



■収納計画3つのポイント



そこで積水ハウスは長年にわたって生活研究・収納研究を積み重ね、収納計画の基本となる独自の3つの視点を生み出しました。

収納計画の基本となる「量」「場」「形」の3つの視点。

では、質の高い収納を実現するには、どのようなことがポイントになるのでしょうか。一般的に、納戸などの「集中収納」と、各部屋に設けた分散収納をバランスよく設けることが有効だと言われています。ただ、日々の暮らしを支えてくれる生活用品や道具類・衣類などの物は、大きさも力タチも使い方もさまざま、集中収納・分散収納という捉え方だけでは片付けきれません。そこで積水ハウスは長年にわたって生活研究・収納研究を積み重ね、収納計画の基本となる独自の3つの視点を生み出しました。

低くなりがちですが、単純に比較するのはナンセンスです。マンションでは限られた床面積の中で間取りを計画する必要があり、単に収納率を上げようとすると部屋が狭くなるなど、快適性を損なうことにもなります。グランドメゾンでは、より高効率な収納計画に工夫を凝らして「広さだけではない使い勝手を確保しつつ、収納の質」にこだわっているのです。

■持ち物分類と収納の考え方(例)

持ち物	適した収納場所	収納方法のコツ
よく使う物	●使う場所の近く ●物の出し入れや人の行き来がしやすい場所	●パツと目につき、見つけやすく ●出し並べておけるのが理想
使うたびに使う物	●重たい物・大きな物なら使う場所近くがベスト ●持ち運びしやすい物なら離れた場所でもOK	●物を見渡しやすい状態しておく ●ひとまとめにせず個別収納が理想
使わない物	●家族共用の納戸などの集中収納スペース ●収納スペースの奥まった場所でもOK	●ボックスなどにまとめるのも有効 ●中身がわかるようにしておくことが大切

ところで、皆さんはご自宅にある物の量や種類について考えてみたことがありますか。とくに物の多い家族では、持ち物の全体像を把握しきれないことが、収納に悩む原因がイメージしやすくなります。

まずは1つ目は、物の多い少ないに合わせて必要なスペースを考える「量」の視点。2つ目は、どこに何を収納するのが効率的かを考える「場」の視点。そして3つ目がそれぞれの物をどのように納めると使いやすさが高まるかを考える「形」の視点です。いわば「どれだけの物を(量)、どこに(場)、どんなスタイルで(形)収納すべきかを細かに検討していくわけです。最終的に計画をまとめるのはプロの役割ですが、この3つの視点を意識しておけば、わが家の収納の理想形がイメージしやすくなります。

収納を考えるには、わが家の持ち物チェックから。



リビング内の半独立型書斎コーナーにクローゼットを併設し、多目的に活用できる収納を確保しています。
(グランドメゾン丸の内スタイル/愛知県)



リビングの壁面の背後に扉付きの「リビクロ」を設け、くつろぎ感を保ちながら、使い勝手の良い収納を提案しています。
(グランドメゾン上原レジデンス/東京都)

を組み込むなどの工夫を行ない、使ったら必ず元の場所に戻すという家族のルールをつくらせておくことが大切です。

積水ハウスでは、この「隠れ家」と「指定席」を拳に満たす使い勝手の良い収納として、リビング脇の独立収納スペース「リビングクローク（リビクロ）」を開発。独自の収納プランニング術「収納3姉妹（リビングクローク、シューズクローク、寝室クローク）」のひとつとしてグランドメゾンでも物件プランに合わせ提案しています。



リビングでの収納確保が難しい場合はLDK全体で収納を考えるのも一案。たとえばロングキッチンカウンターなら、リビング収納としても活躍します。
(グランドメゾン猫洞通ヒルズ/愛知県)



リビングダイニングに壁面収納を計画。生活用品はもちろん、帰宅時や外出時に便利に使える着替え収納も確保しています。
(グランドメゾン江古田の杜/東京都)

■「リビングクローク（リビクロ）」の活用イメージ



リビクロの中に奥行きが違う棚を設けておけば、リビングから目障りにならず、どこに何があるかがひと目でわかります。



掃除道具や季節家電などの大きな物もすっきりと納まり、出し入れもスムーズです。



「魅せる収納」でインテリア性をアップ。

リビングをすっきりとした印象に仕上げるには、確かに目隠しタイプの収納が有効です。ただ、せっかくのメイン空間なので、わが家らしいインテリアの演出にも気を配りたいものですね。

そこでオススメしたいのが、単に仕舞い込む収納だけでなく「魅せるディスプレイ」といった感覚を大切にすること。お気に入りのアート本や食器類、旅先で手に入れた想い出のグッズや家族の記念写真などをオープン棚に飾るように納めれば、インテリアがぐんとグレードアップして見えます。



TVボードとオープン棚を組み合わせ、印象的なリビングを演出。下部の扉付き収納に雑多な物が納められます。
(グランドメゾン桜山スタイル/愛知県)



リビングダイニングの壁面にワイドなオープン棚を設けて、ディスプレイ性を高めています。
(グランドメゾン伊丹池尻リテラシティ/兵庫県)

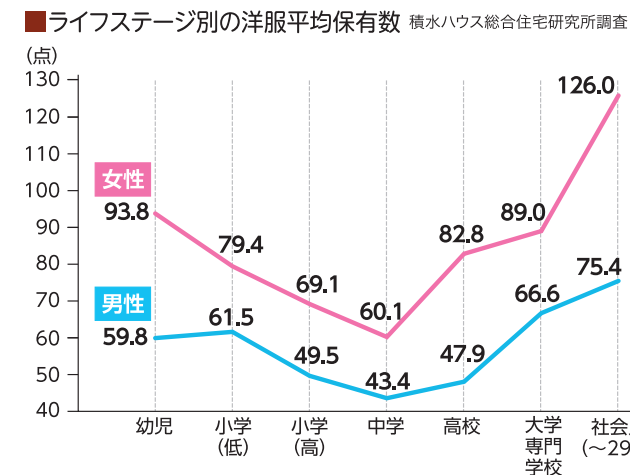
生活感のある雑多な物は目隠し収納に納めておき、空間全体をシンプルに整えたいうえで、わが家らしい演出をプラスするのがインテリア性を高める秘訣。季節に合わせてディスプレイする物を変えていけば、気分もリフレッシュされて、わが家らしく豊かな暮らしの風景が楽しめます。

*
今号では、収納の基本的な考え方とリビング収納のノウハウをご紹介します。次号でも引き続き「暮らしと収納」をテーマとし、玄関収納や寝室収納についてお伝えする予定です。

になりがちです。上手な収納の実現には、わが家の持ち物をリアルに掴むことが第一歩になります。チェックの方法は「よく使う物」と「ときどき使う物」「あまり使わない物」の3つに分けて見渡すのがコツ。この3段階の分類に沿って収納場所や収納方法を考えると、使いやすい収納を思い描きやすくなります。

たとえば「あまり使わない物」なら、ボックスに仕舞い込んで収納スペースの奥に置いて大丈夫。このとき、外から中身がわかるようにシールなどを貼っておくのが肝心です。また「よく使う物」なら、使う場所の近くに出入れしやすいスタイルで納めるのが有効。持ち物チェックは、収納の「量」はもちろん、「場」や「形」の検討につながるわけです。

そして、現在の持ち物を把握すると同時に、将来の変化を想像しておくことも大切。生活キャリアとともに持ち物は増加する傾向にあります。子どもたちが独立するなど家族構成が変われば減少するケースもあります。



物と奥行きを相性を知っておこう。

押し入れの奥に仕舞った物が取り出しにくい、棚から少しだけ本などがはみ出して不恰好…。そんな経験ってありませんか。これは収納する物と収納スペースの奥行きがミスマッチが原因。本当に使いやすい美しい収納を実現するには、物と奥行きが相性がとても大切なのです。暮らしのシーンを思い浮かべて、何をどこに納めれば便利かがイメージできれば、次は物と収納スペースの奥行きをチェックして、出し入れのしやすさや見渡しのしやすさを高めましょう。収納の奥行きが無駄を無くせば、空間の広がりも確保することにつながります。

■収納の奥行きと物の相性

奥行 15cm	奥行 30cm	奥行 45~50cm	奥行 60cm	奥行 90~100cm
キッチン用品 水まわり用品に多い	奥行の浅い カップボードに多い	奥行の深い カップボード 整理だんす 廊下収納に多い	洋服だんす クローゼットに多い	押し入れ、 階段下収納 などに多い
食器類、保存食品、 文庫本、CD、ビデオ、 写真立てなど	どんぶり、重箱、 大きめの密閉容器、 アイロン、裁縫箱、 電話・FAX、雑誌など	食器、アイロン台、 ミシン、ストック用 ティッシュペーパー、 ポリ容器、掃除機、 扇風機など	吊るす洋服、 スーツケース(縦にして)、 スポーツバッグなど	布団類、 スーツケース、 収納ケースなど

収納の不満NO.1はリビング。

収納の悩みといえば、衣類や子どもたちのオモチャ、季節用品などを思い浮かべがちで、場所としては寝室や個室のクローゼット、納戸などをイメージされることが多いのではないのでしょうか。

ところが、実際に調査してみると、「片付けにくい」と不満を感じるナンバー1はリビングなのです。確かにリビングは、家族の集う部屋だから一緒にいるんな物が集まってきて、どうしても物があふれがち。過ごす時間も長いので、身近にあったら便利な物も多いの

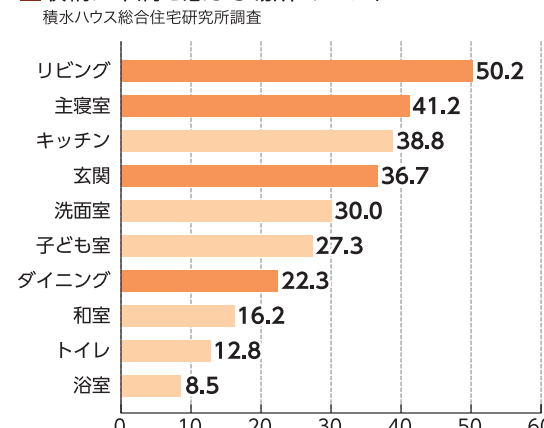
ですが、意外と収納スペースの確保を見落とすしやすい空間だと言えるでしょう。

さらに毎日の生活で散らかりが目につきやすい場所ですから、どうしても「片付けなくっちゃ」というストレスにもつながって、大きな不満のタネになってしまいます。

とくに最近では、LDKがオープンにつながった間取りが多いだけに、リビングが散らかっているという印象に大きく影響し、「片付かない、わが家」というネガティブな思いが強まっています。

ただ、リビングが片付けやすく、すっきりと整えやすくなれば、逆に収納の悩みもずいぶ

■収納に不満を感じる場所 ワースト10 積水ハウス総合住宅研究所調査



リビング収納のポイント「隠れ家」と「指定席」。

実際にリビングには、どのような物が集まってくるのでしょうか。雑誌や新聞、子どもたちのオモチャ類、家事用品や掃除道具、文具や医薬品などなど、少し思い浮かべるだけでも限りがありません。

リビングが散らかりやすくて片付けにくいのは、このように集まる物が多種多様なことと、それらが部屋のあちこちに放置されやすいことが大きく影響しているのです。この問題を解決するには、雑然さを目につくようにする大物の「隠れ家」と、散乱を防ぐ小物の「指定席」を設けることが決め手になります。

「隠れ家」を設けるには、扉付きの目隠し収納や専用スペースをリビング付近に設けるのが有効。指定席は、引き出し式のチェストを配置したり、収納棚に小さなボックス収納

んと軽減されるのではないのでしょうか。まずはリビングからわが家の収納を考えてみるのも有効です。積水ハウスでは、このリビング収納の重要性に早くから着目し、グランドメゾンでもさまざまな提案を行なっています。